

JIMTOF 2016



『マツウラが実現する 次世代モノづくり』

2016年11月17日(木)→11月22日(火)

「ここから未来が動きだす」を統一テーマとした、アジア最大級の工作機械見本市「JIMTOF2016（第28回日本国際工作機械見本市）（主催：一般社団法人日本工作機械工業会/株式会社東京ビッグサイト）が11月17日（木）から11月22日（火）までの6日間、東京ビッグサイトで開催されました。今回新しく竣工された東新展示棟を使用することで、過去最大規模の開催となり、出展数は約900社・約5,500小間で、約14万人の来場者がありました。

会場では、あらゆるモノがインターネットにつながるIoT（モノのインターネット）や、進化した自動化技術など未来のモノづくりのあり方を予感させる展示が注目をされていました。また成長産業である航空機産業向けに難削材加工の効率化や、自動車産業向けに生産効率向上に結びつく加工システムなどがアピールされていました。



▲説明を受ける来場者

マツウラが提案するソリューションの実演



▲MX-330 PC10



▲MAM72-35V

この展示会では『次世代モノづくりの実現に向けて』をテーマに最新技術を展示いたしました。大型部品への対応（最大工作物寸法W600×D600×H500mm）が可能になった新モデルのハイブリッド金属3Dプリンタ**LUMEX Avance-60**では、マツウラアルミニウムSi10Mg粉を使用したV8エンジンブロックを製作。5軸制御立形マシニングセンタ**MX-520**では、このV8エンジンブロックの仕上げ加工を行いました。5軸加工機が初めてでも安心・安全操作の小型ワーク対応の5軸制御立形マシニングセンタ**MX-330**は、10パレットと90本工具マガジン仕様で、材質SCM440のシリンダーバルブと材質S45Cのバルブボディーを加工。長時間無人運転・変種変量生産を可能にする320本マガジンと32パレットの5軸制御立形マシニングセンタ**MAM72-35V**では、アクチュエーター（航空機）、ケーシング（エネルギー）、遊星減速機構部品（産業機械）、膝関節部品（医療）の加工。広い加工エリアと大型ワークサイズを実現した新機種の横形マシニングセンタ**H.Plus-504**では、デフキャリア加工ライン部品（自動車）とボディ（光学機器）の加工を実演しました。

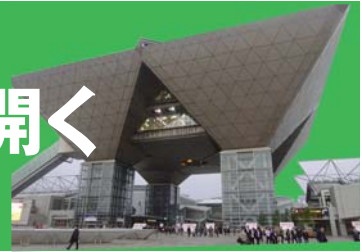
また、19日（土）には今年4月に入社する学生とインターンシップ参加学生のJIMTOF見学研修を行い、マツウラの革新技術を学びました。

「JIMTOFを見学してマツウラの技術力の凄さを実感しました。マツウラで働くことに誇りを持ち世界で活躍できる技術者を目指したいです」と頼もしい抱負を語っていました。



▲内定学生とインターンシップ学生

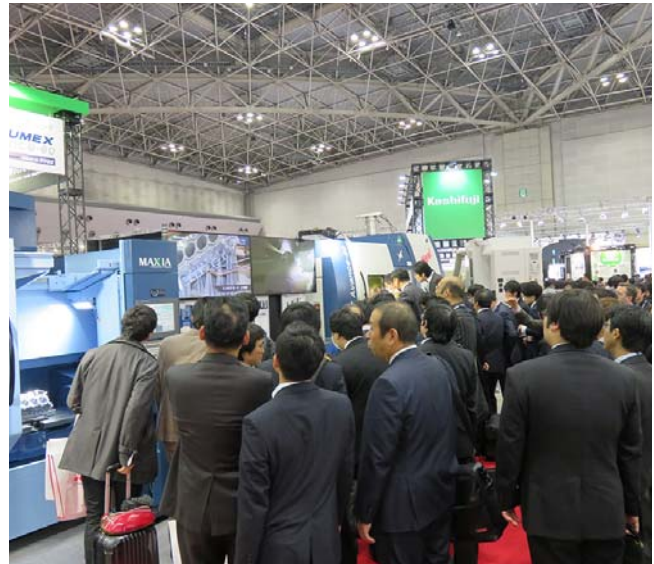
をテーマに最先端技術が花開く



注目を集めるハイブリッド金属3DプリンタLUMEX Avance-60

初出展となりました**LUMEX Avance-60**は、終日多くの方が加工実演を見ようと機械前に詰め掛け、ブース内でも一番注目を集めていました。同機は、ARPシステム（自動粉末リカバリーシステム）を標準装備しています。このシステムにより、粉末の自動供給・回収・再利用が可能となります。更に金属粉末は、アルミニウム系を使用し部品加工への可能性を示し、ハイブリッド金属3Dプリンタ技術が確実に進化していることをアピールしました。

ハイブリッド金属3Dプリンタの実用事例を示すために、多数のユーザー様よりサンプルワークをお借りして”**LUMEXユーザーコラボレーション**”として展示致しました。サンプルを見られた方々から「ハイブリッド金属3Dプリンタ技術が実用レベルに来ている」との声が多数ありました。



▲注目を集めた**LUMEX Avance-60**



▲にぎわうマツウラブース



▲**LUMEXユーザーコラボレーション**



▲提供頂いたサンプル展示

【ご協力頂いたユーザー様】

- ・三光合成株式会社
- ・パナソニック株式会社
エコソリューションズ社
- ・株式会社メイク
- ・東金属産業株式会社
- ・七宝金型工業株式会社
- ・公共機関(福井、北海道、山梨、鳥取)
- ・大学(金沢工業大学、大阪電気通信大学)